

令和6年度第1回 佐倉警察署協議会

- 1 開催日
令和6年6月5日（水曜日）
- 2 開催場所
佐倉警察署
- 3 出席者
・協議会委員11人 ・警察署10人
- 4 新任委員に対する委嘱状交付及び新任委員挨拶
- 5 業務報告
 - (1) 管内の犯罪発生状況等について
 - (2) 管内の交通事故発生状況等について
- 6 警察署からの諮問事項
なし
- 7 委員からの要望・意見等

(1) 【質問】

子どもの人口が減っていく中で、一つの苦情から、子どもの居場所がどんどんなくなっていく状況をどうしたらいいか。

【回答】

全国的に道路で子供達が遊ぶ行為が問題視され、道路族とも言われているそうです。

ひと昔前であれば、道路で子供達が遊んでいても地域全体で注意を払ったり、住民が見守ったりしていましたが、公園でボールを使って遊ぶことも容認されていたと思いますが、今の時代は道路で遊んでいて交通の妨害になったり、危ないと思う方がいれば、法律に則って注意します。

実際に、道路上で遊ぶ行為は危険な行為ですし、道路交通法でも「交通の頻繁な道路においては、球戯をし、ローラースケートをし、又はこれらに類する行為をすること」は禁止行為とされており、場合によっては違反と見なされ、罰金が科されることになっています。（道交法第14条第3項）

その中で、子供の居場所がなくなっていく状況をどうしたらいいかという質問ですが、一つの苦情という考えではなく、そもそも道路でローラースケートやボール遊びをすることが法律で禁止されていますし、子供達の安全を考えるのであれば、安心して遊べる場所を確保する必要があると考えます。

これは、警察で、できないことですので、自由にボールが使える広い場所、例えば学校のグラウンドを夕方まで開放してもらおう等、公園を整備したり学校の解放などは市や教育委員会にご相談してみるのはいかがでしょうか。

警察は、こうした通報があれば、危険の排除という観点からも現場に臨場し、注意喚起することもありますし、他にもさまざまな通報に基づき現場臨場することになりますので、ご協力をお願いします。

(2) 【質問】

千葉県警の女性の幹部はどれくらいか。

佐倉警察署の女性幹部の比率は、県警の平均と比較してどれくらいに位置するのか。
また、女性を多く登用するためにどんな努力をしているのか。

【回答】

県警では、平成23年度から女性警察官の採用・登用拡大についての取組を推進しております。

今年度はまだ確定数の発表がありませんので昨年度の統計となりますが、令和5年4月1日現在、女性警察官は1,340人で、10年前と比較し約1.5倍となっており、警察官全体の約12パーセントを占めております。

また、警察の階級において、いわゆる上級幹部は、警視2人、警部20人、中級・初級幹部はそれぞれ、警部補133人、巡査部長443人となり、女性警察官の内約44パーセント、全警察官の内約5パーセントが警察幹部として活躍しております。

当署の全警察官数は、令和6年4月1日現在で257人、そのうち、女性警察官は28人で、署全体の警察官の内約11パーセントを占めております。

県警では、出産や育児等のライフイベントを迎えている女性警察官が仕事と家庭を両立しながらキャリア形成できるように支援していく取組を行っています。

一例として、昇任試験受験機会の均衡化を図るために、これまで、介護休暇及び出産・育児休業等を取得中の職員は、昇任試験を受験することができないとされていましたが、令和6年度の昇任試験から、当該休業等取得中も受験が可能になりました。

また、育児期に昇任を希望しなかった等の理由により結果として昇任が遅れている職員についても、優れた能力と実績を持つ女性職員に対しては、多様な職務機会の付与や研修等の必要な支援を積極的に行い、昇任意欲、スキル等の向上に努めるなど、女性幹部登用に向けた取組を推進しております。

女性警察官の採用拡大はもとより、女性職員が幹部を目指しやすい職場環境を構築するため、女性職員の意見を尊重した各種施策に引き続き取り組んで参ります。

(3) 【質問】

岩富町での交通死亡事故についてだが、現場は両側から来ても木のトンネルのような状態で、非常に運転しづらい場所だと感じている。

また、周辺はヤードと推察されるような場所もあり、出入りしている大型車が増えてきており、不安に思うこともある。

海外に由来のある方が車を運転しているということは、運転免許の所持がなされており交通法規やマナーも守ってくれているのだろうと思っているが、やや不安に感じているところだ。

私の住む地域では、大型車の通行が非常に多くなってきている。

そこは、片側一車線の道路なのだが、トレーラーのような大きな車とすれ違う機会が増えてきており、地域の子供達も交通事故への不安から通学路の選択に困難な状況に陥っている。

毎日が安心して暮らせるようになればよいと考えるのが、どうすればよいか。

【回答】

現場には木が生い茂っており、今後も夏に向けて木が育っていくため、通行の妨げになることは推察されます。

警察としては、道路管理者や土地所有者と協議をして伐採できるように促していきます。直ちに伐採するというわけではなく、時間を要しますので、ご理解を頂ければと思います。

今回の現場は、道路自体も狭く、周囲にはヤードがあるのは事実です。

以前に比べて大型車両が通る機会は増加していますが、大型車両の通行が禁止されている道路でないのので、通行を制限することはできませんのでご理解ください。

もし、大型車とすれ違う際は、減速して、自分の身は自分で守るといった防衛運転をお願いしたいと思います。

外国の方々との関係は、国際化している中でグローバル化が進んでおり、逆戻りはできない問題となっています。

地域の方々でも、うまくコミュニケーションがとれると双方にとってよいのではないかと考えます。

警察でも外国の方による交通事故や違反を多く取り扱うようになってきました。

国際免許証の期限が切れてしまった方や期限が切れているのを知っているにも関わらず、適正な手続きをしないまま運転している方も散見されます。

警察では、こうした事案に対し、事件で対応すべきものは対応し、警告すべきものは警告をして毅然とした対応をとっていきます。

また、外国の方々にも日本の法律を知ってもらえるような取り組みをしていますので、警察活動へのご理解も頂けたらと思います。

(4) 【質問】

不同意わいせつのところで件数が昨年より倍になっているが、こういった内容のことだったのか伺いたい。

【回答】

不同意わいせつについては、被害者保護の観点から、詳しいことはお話できず、住所や名前、年齢も周囲に分からないようにして対応しているところです。

認知件数は、どうしたら増えるというわけではありません。

中には、届け出をされない方もいますが、件数が増えたことは、現代の機運の中で届け出しやすくなった部分もあるのかと考えています。

認知件数の増加に対する検証は難しい部分もありますので、ご理解頂ければと思います。

また、被害者の方が被害届を出さず、被害者や家族、周囲の関係者から相談を受ける警察相談というものがありますが、相談内容をもとに、幹部が必要な判断をして事件化を図っている場合もあります。

これまでは、泣き寝入りされていた方も多くいたものと思います。

現代においては、SNSで知り合い、その日のうちにそういった被害に遭うこともありますので、性犯罪は右肩上がりになっていく可能性もあります。

これからは、季節的にも女性が薄着になりますので、被害に遭遇する場面が多くなる可能性も考えられます。

昨年との認知件数に差異があるからといって対応を懈怠していたわけではありせんし、事件が表面化している背景には、現代のネットワーク社会等も一つの要因にな

っているのかと思います。

(5) 【質問・意見】

ワークライフバランスの推進結果についてお伺いしたい。

配偶者の出産、休暇取得目標数値が5日以上とのことだが、特別休暇の数値がもっとあがる方が良いのではないかと、公的な仕事をしている人こそもっと力を注げるような体制をとっていくことが女性幹部や女性が働きやすい社会になるのではないかと。

それぞれのライフステージにいる人が声をあげていくことで、男性も女性も働きやすくなり、子供をサポートできる人が増えて良いと思う。

【回答】

委員からのご指摘はごもっともであり、現在の目標数値は一定の数値でありますので、今後の社会情勢により変動して行くものと考えられます。

警察は、女性職員の幹部登用は民間企業に比べて遅れているのは事実です。

今後も女性幹部が増加するとともに、女性の視点を反映した業務運営を推進していくところです。

【更問】

女性が多い職場はどんなメリットがあるのか。

【回答】

女性警察官の強みは、男性よりも柔軟な市民応接が可能なところです。

被害者が女性であれば、女性警察官が対応することが適任と考えています。